

# 第2回 藤原館長が選ぶ スマホで万葉集

万葉集に残されたさまざまな情景を  
君の感性で切り取って見せてください

2026年1月7日(水) 締め切り

秀作20名にQUOカード5000円分プレゼント！

## ■ 参加方法 ■

応募資格 原則18歳以下

君なりの万葉集の情景を撮影したら  
高岡市万葉歴史館公式の

Instagram(@manreki) もしくは X(@manreki) をフォローして



#スマホで万葉集2025 と 歌番号 を付けて投稿！！

メールでも応募できるよ

manreki2@p1.tcnet.ne.jp

詳細・お問い合わせは  
高岡市万葉歴史館HPを見てね





# 迷ったら、この一首から！ インスピレーションで あなたの一枚を投稿してね！

●本当にかけがいのないことって何？

銀も金も玉もなにせむに優れる宝子に及かめやも（巻五・八〇三 山上憶良）

銀も金も玉もどうして優れた宝は子どもに及ぼうか我が子以上の宝はないのだ

●美しさのむこうのなにかに気づく

立山に降り置ける雪を常夏に見れども飽かず神からならし（巻十七・四〇〇一 大伴家持）

立山に降り置いた雪は夏の間いつ見ても見飽きることがない神としての品格ゆえであろう

●この桜の花を、遠くにいる友人に見せてやりたい、一緒に見たい

我が背子が古き垣内の桜花 いまだ含めり 一目見に来ね（巻十八・四〇七七 大伴家持）

親しい友よ君が住んでいた屋敷の桜の花はまだ蕾だ一目見において

●子が親との別離をおもう。子どもからの視線

父母が頭搔き撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる（巻二十・四三四六 防人丈部稻麻呂）

別れのときに、父と母とが私の頭を撫でまわし、「幸くあれ」くれぐれも無事でお帰りといった言葉が忘れられない

●気の合う者同士であそびにでかける喜び

馬並めていざ打ち行かな 渋谿の清き磯廻に寄する波見に（巻十七・三九五四 大伴家持）

馬を勢ぞろいしてさあ鞭打って出かけよう。渋谿のさっぱりとした清い磯のめぐりに波が寄せるのを見ようじゃないか